

三井のリフォーム 住生活研究所 所長 西田 恭子

とっさの判断・総合判断

先日、海外に行くことがあり、朝、車で空港に向かうことにしていた。当日少し早めに目が覚めたのでテレビをつけると、成田空港は雪だという。数日前も東京では大雪が降り、東京都心で二七センチと、一九九四年二月一二日以来の二〇センチ超えで、戦後四番目の積雪だった。

にらめっこしての新たな切符購入は気がきではなかったが、結果的には確保でき飛行時間には間に合った。すべては結果よければだと思っもの、どれが一番よかったのかは今わからない。あのままポイント故障改修を待っていた人たちはどうしただろうか？

自家用車はスタッドレスタイヤをはいていないので、車で行くのは断念して急遽電車に変更した。目が覚めてから家を出るまでに三〇分もかからずに飛び出したと思う。東京の交通網は発達していて、成田へはJRのエキスプレスもあれば、京成電鉄のスカイライナーもある。さてどう行くのが早いか悩んだが、品川からエキスプレスで向かうことにした。どちらも全席指定なのだが何とか席を確保して乗車したものの、今度は東京駅でその先のポイント故障でなかなか動かない。ほとんどの人はそのまま電車内にいたが、とっさに電車を降りて山手線に乗り換え、今度は日暮里からスカイライナーに乗った。

仕事でも判断を迫られることはよくあるだろう。日常的な変更行動は各担当者の様子や上司の許可を取ってからとなるだろうが、とっさの変更が求められる時には、頼るのは自分自身の判断力を信じて行動するほかはない。

「残席わずか」の掲示版と

今回も躊躇せず行動したことで、どちらが良かったかはわからないもの、後悔することはなかった。交通機関の発達で、目的の地までどう行くのか悩むことは多い。

数がまちまちなおいて、何を基準に結論をだしていくのか、長期優良住宅を目指す中でのトータル判断が求められる。

そんな中で、リフォームの設計者はデザイン性をどこで発揮していくのか。デザインだけではない、素早い情報取得と正確さが求められる。

学生の頃、ひき違い建具の二本のレールに扉の線を、前後間違えて図面に引いて先生に叱られた。「どちらでもいいのでは？」と言った時に「だめだ！」と言われて萎縮したの思い出す。社会人になって、ドラム式洗濯機の電気容量を聞かれて即答できなかった時も「そんなことで設計者と言えますか？」と言われたことがあった。

自宅のリフォームにおいても、あまりに選択肢が多すぎて、打ち合わせ時間がかかり過ぎると感じる人がいる。その気持ちは本当によくわかる。種類が多いこと、次々と出される最新設備機器に振り回される。設備機器や構造など耐用年

アーキテクトとして仕事をしているつもりでも、実物件でぶつかる失敗や落とし穴は、もっと違うところにあるようだと言いつきだ。デザインは、最善の気配りと緻密さの上に立って、初めて仕事として体感できるのだろうか。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。日本建築家協会正会員。」